

めだるにはおもてとうらがある

2011年3月、あの3.11から14日後。私はロンドンに居た。震災のニュースはロンドンのテレビでも毎日のように流れていた。そこで私は少し不思議な感覚に襲われた。日本でみていた震災のニュースとロンドンでみている震災のニュースは別の事を報じているように感じたのだ。何かが違うというわけではない、確かに同じことを言っていたと思う。だが、そのニュースを聞いて湧き上がる感情は別のものなのだ。

私がその時ロンドンに居たのは英国美術メダル協会のカンファレンスに出席するため毎日メダルのことを考えていた。

“私の感じた違和感はメダルで表現できるか？”

私はメダルを二層構造にしてそれぞれを表面と裏面の隠喩とした。二つの面は完全な裏表ではなく、微妙にズレながら一つの時空に存在する。採集した植物の断片はその時私が確かにそこに居た標しとして複数の時空（複数の面）を繋げている。手のひらに乗る多元宇宙は増え続けている。

瀬田 哲司